

Ⅱ 結 果 の 内 容

《最大電力需要の抑制（ピークカット）について》

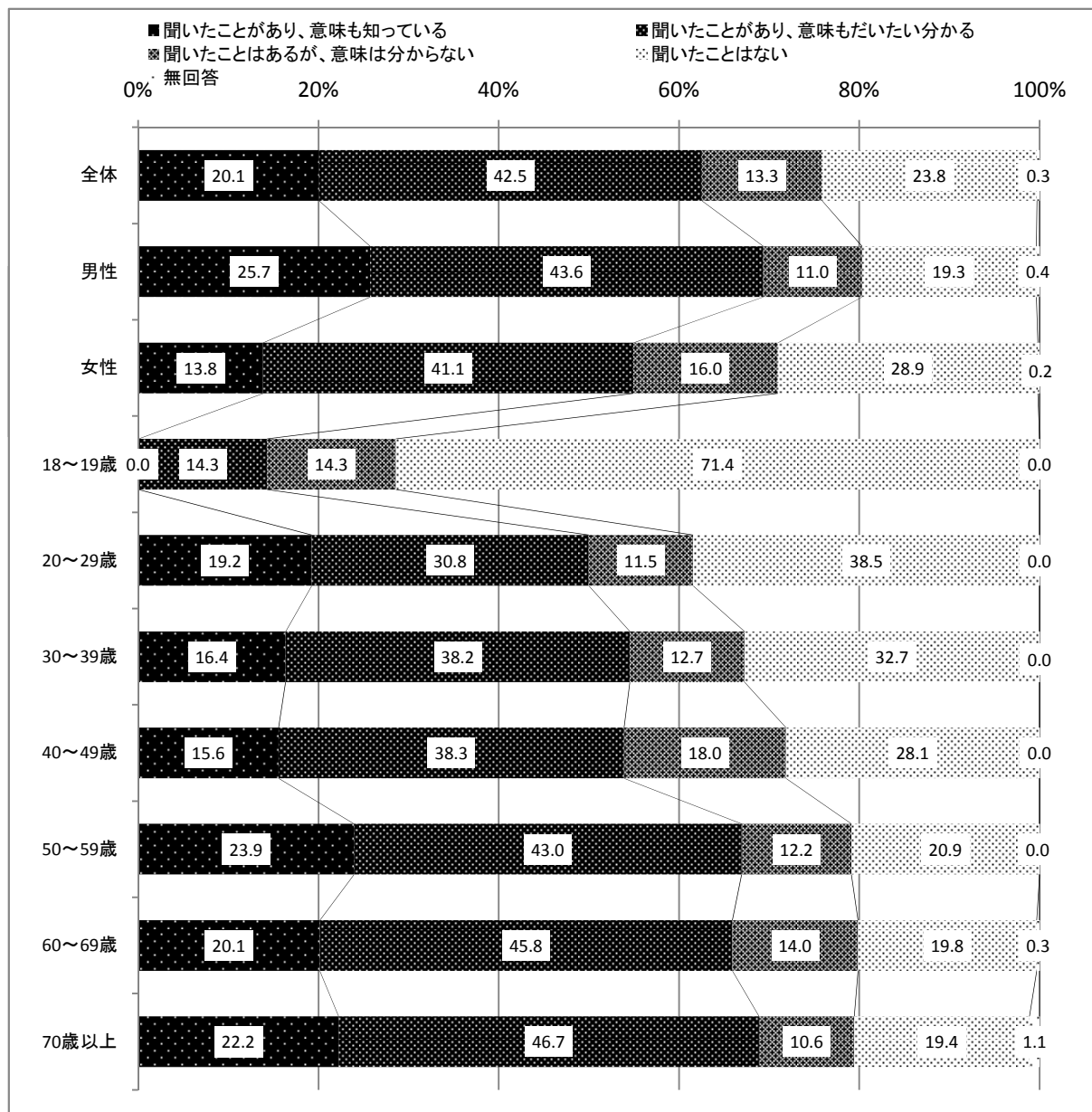
＜最大電力需要の抑制（ピークカット）に関する認知度＞

「聞いたことがあり、意味も知っている」と「聞いたことがあり、意味もだいたい分かる」が合わせて約6割、
「聞いたことはあるが、意味は分からない」と「聞いたことはない」が合わせて4割弱

問1 ピークカットをご存じですか。（○は1つ）

	n= 1,057	回答数 (人)	割合 (%)
聞いたことがあり、意味も知っている		212	20.1
聞いたことがあり、意味もだいたい分かる		449	42.5
聞いたことはあるが、意味は分からない		141	13.3
聞いたことはない		252	23.8
無回答		3	0.3

●認知度は女性よりも男性の方がやや高くなっている。また、年代が上がるにつれて認知度が高くなっており、「聞いたことがあり、意味も知っている」または「聞いたことがあり、意味もだいたい分かる」という回答は18～19歳では約14%であるのに対し、70歳以上では約69%となっている。



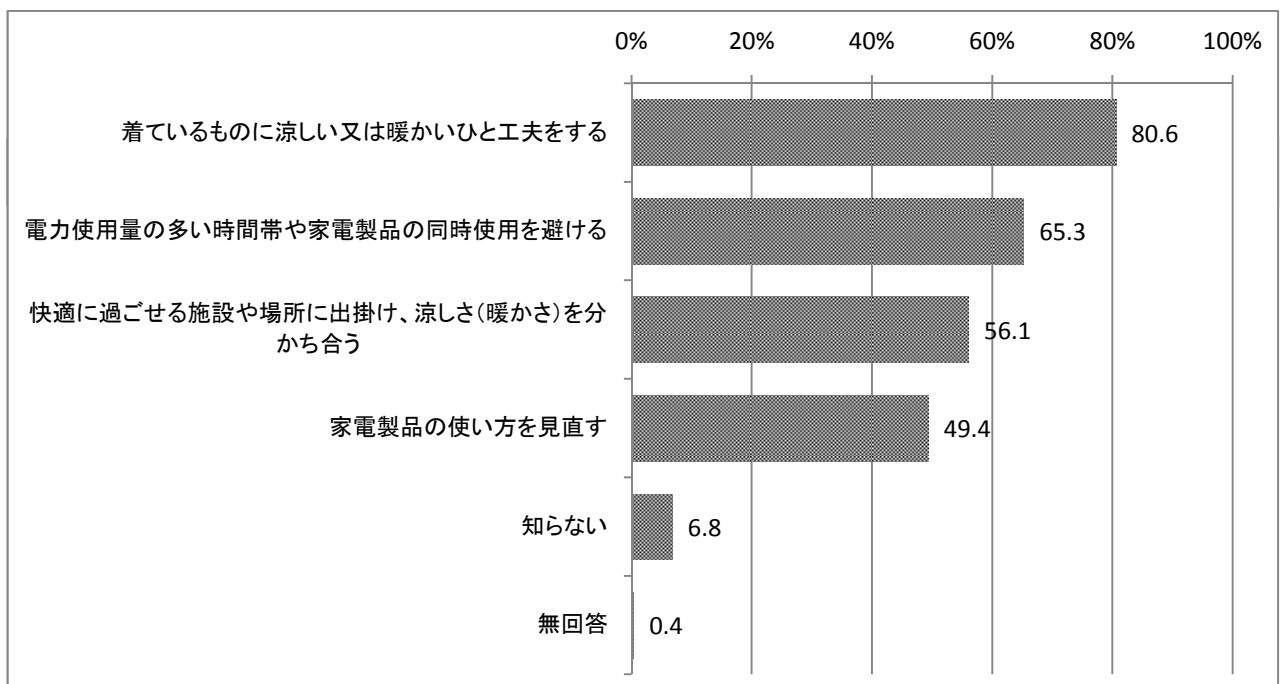
＜有効なピークカットの方法＞

「着ているものに涼しい又は暖かいひと工夫をする」が約8割。次いで「電力使用量の多い時間帯（ピーク）や家電製品の同時使用を避ける」が6割超

問2 ピークカットに有効な方法には次のものがありますが、ご存知ですか。（○はいくつでも）

	n= 1,057	回答数 (人)	割合 (%)
着ているものに涼しい又は暖かいひと工夫をする (COOL BIZ(クールビズ)、WARM BIZ(ウォームビズ)スタイルなど)		852	80.6
電力使用量の多い時間帯(ピーク)や家電製品の同時使用を避ける		690	65.3
涼しく(又は暖かく)快適に過ごせる施設や場所に出掛け、涼しさ(暖かさ)を分かち合う (シェアする)		593	56.1
家電製品の使い方を見直す		522	49.4
知らない		72	6.8
無回答		4	0.4

●「着ているものに涼しい又は暖かいひと工夫をする」が80.6%と最も高く、次に「電力使用量の多い時間帯や家電製品の同時使用を避ける」(65.3%)、「涼しく(又は暖かく)快適に過ごせる施設や場所に出掛け、涼しさ(暖かさ)を分かち合う」(56.1%)が高い割合となっている。



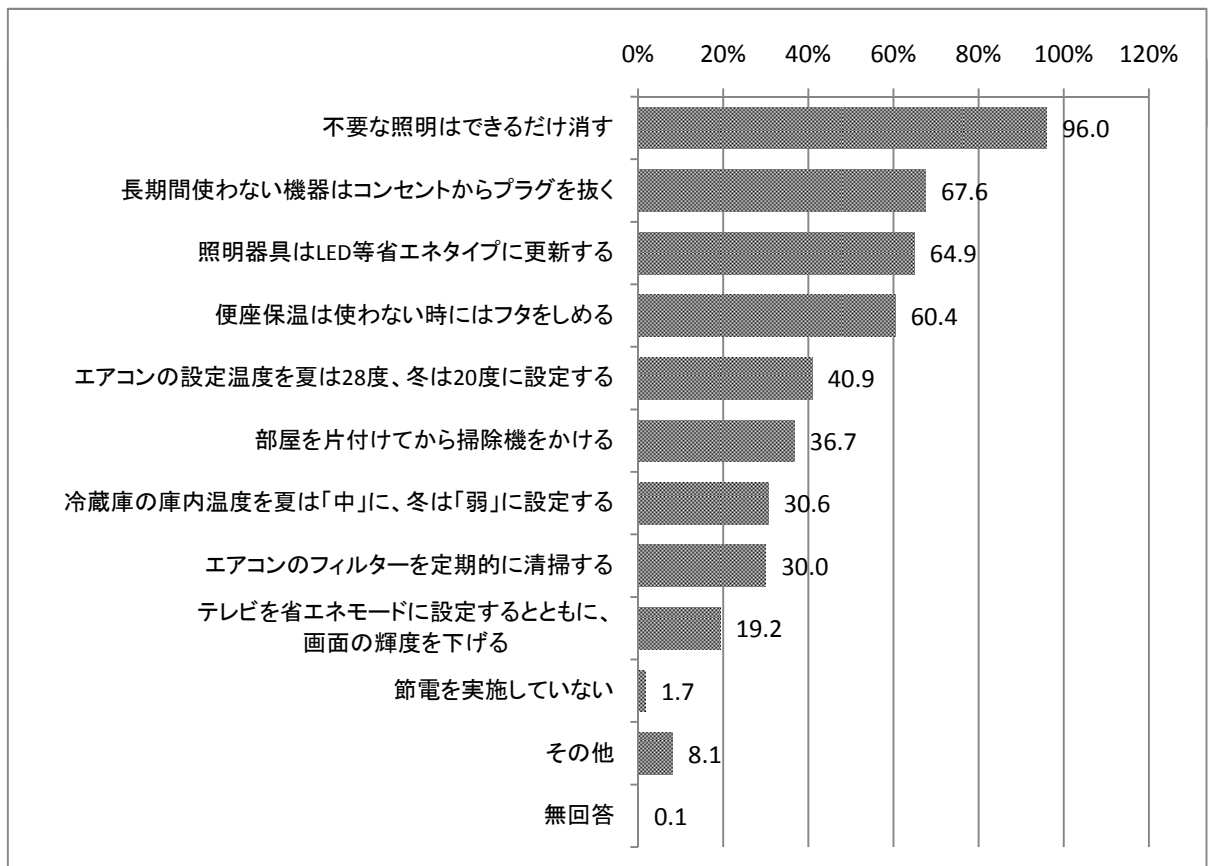
＜節電のために実践していること＞

「不要な照明はできるだけ消す」が9割超。次いで「長期間使わない機器はコンセントからプラグを抜く」が約7割

問3 家電製品の使い方について、節電に有効な取組は次のものがありますが、実施しているものはありますか。
(○はいくつでも)

	n= 1,057	回答数 (人)	割合 (%)
不要な照明はできるだけ消す		1,015	96.0
長期間使わない機器はコンセントからプラグを抜く		714	67.6
照明器具はLED等省エネタイプに更新する		686	64.9
便座保温は使わない時にはフタをしめる		638	60.4
エアコンの設定温度を夏は28度、冬は20度に設定する		432	40.9
部屋を片付けてから掃除機をかける		388	36.7
冷蔵庫の庫内温度を夏は「中」に、冬は「弱」に設定する		323	30.6
エアコンのフィルターを定期的に清掃する		317	30.0
テレビを省エネモードに設定するとともに、画面の輝度を下げる		203	19.2
節電を実施していない		18	1.7
その他		86	8.1
無回答		1	0.1

●「不要な照明はできるだけ消す」が96.0%と最も高く、次に「長期間使わない機器はコンセントからプラグを抜く」(67.6%)、「照明器具はLED等省エネタイプに更新する」(64.9%)が高い割合となっている。



その他としては「洗濯はピークの時間帯を避けて行う」、「居間で家族4人が過ごす時間を長くする」、「家電製品はなるべく新しいものに更新していく」等が見られた。

《「自転車事故を補償する保険」について》

＜自転車の保有状況＞

同居の家族を含めて自転車を「保有している」と回答した人が6割超

問4 ご本人又は同居のご家族は、自転車を保有していますか。(○は1つ)

	回答数 (人)	割合 (%)
n=1,057		
保有している	695	65.7
保有していない	358	33.9
無回答	4	0.4

●「保有している」割合は65.7%で、「保有していない」割合は33.9%となっている。

＜「自転車事故を補償する保険」の加入状況＞

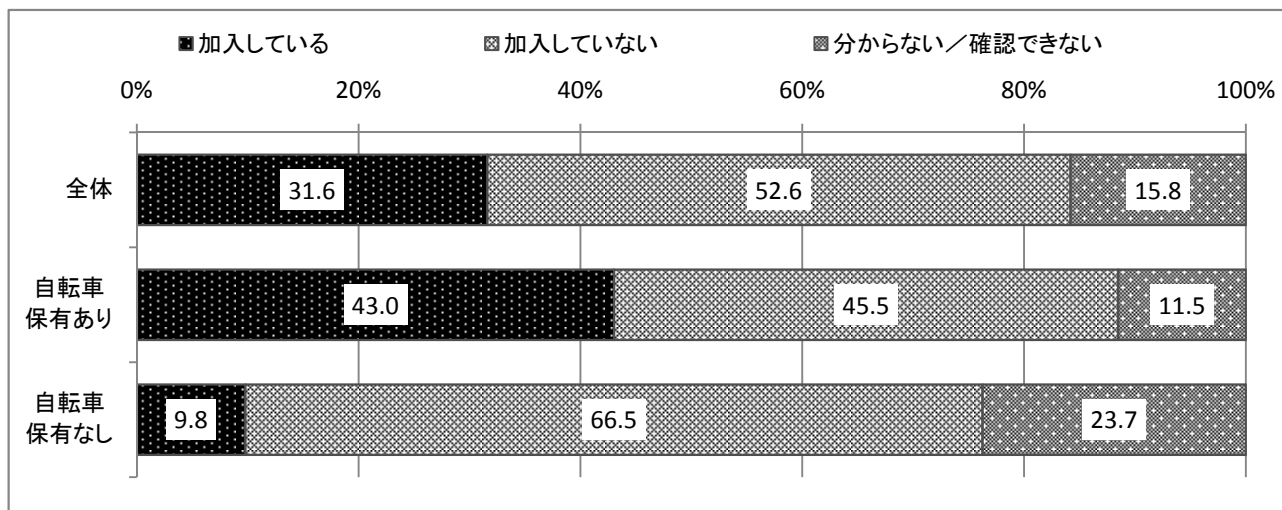
「自転車を保有し」、かつ「保険に加入している」と回答した人が4割超

問5 ご本人又は同居のご家族は、「自転車事故で加害者となった場合に損害賠償額を補償する保険」に加入していますか。次のうち該当するものを選んでください。(○は1つ)

	回答数 (人)	割合 (%)
n=1,057		
加入している	334	31.6
加入していない	556	52.6
分からない／確認できない	167	15.8

●「加入している」割合は31.6%で、「加入していない」割合は52.6%となっている。また、「加入しているかどうか分からない・確認できない」割合も15.8%に上っている。

●自転車「保有の有無」別では、自転車を保有していて保険に加入している人は、43.0%となっている。



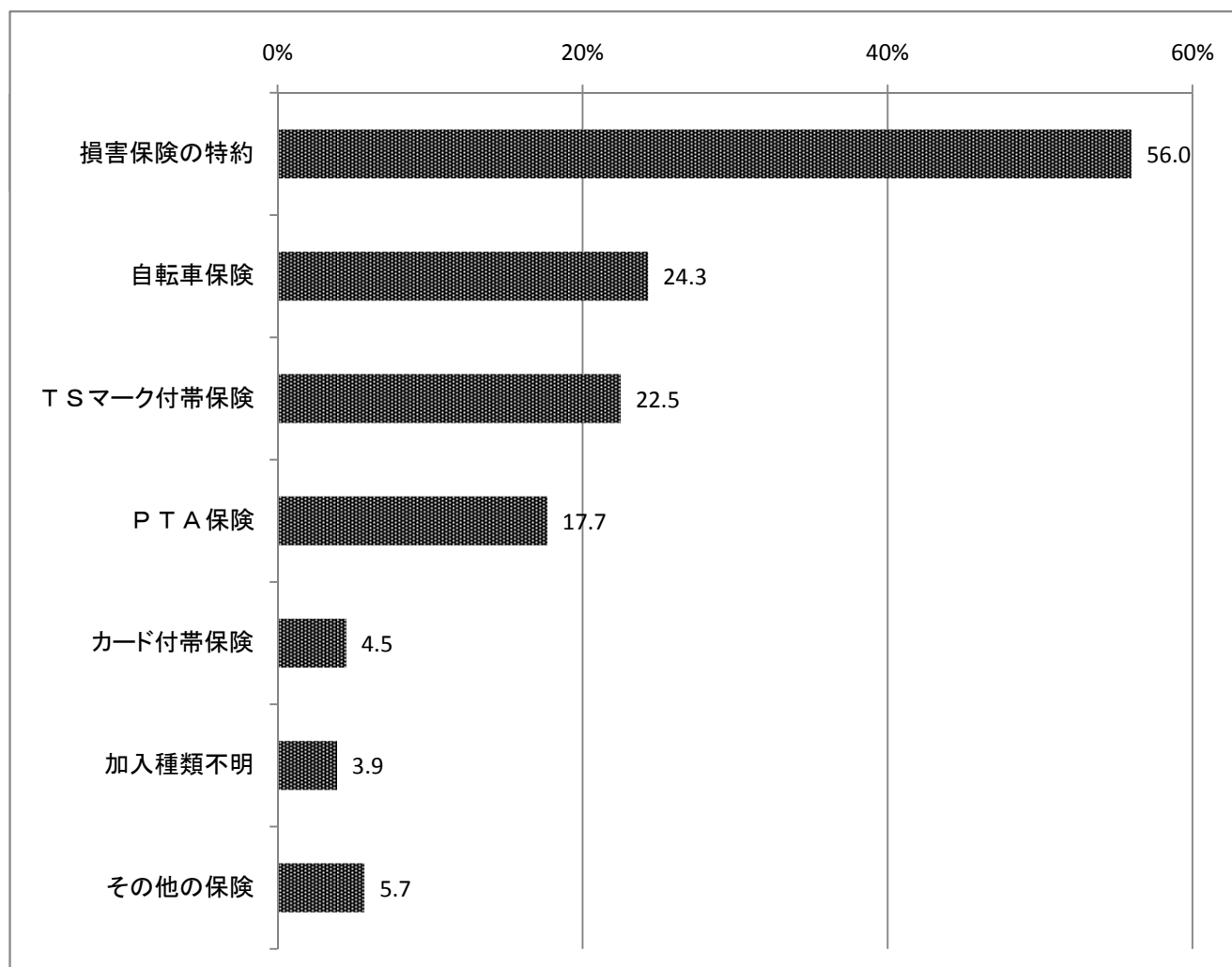
＜加入している自転車保険の種類＞

「損害保険の特約として加入」が5割超、「自転車保険」加入、「TSマーク付帯保険」加入がそれぞれ約2割

問6 問5で「加入している」と答えた方に伺います。ご本人又は同居のご家族が加入している保険は、次のうちどれですか。該当するものをすべて選んでください。（〇はいくつでも）

	n=334	回答数 (人)	割合 (%)
自動車保険、火災保険などの損害保険の中で、特約として加入		187	56.0
「自転車保険」と名称に明記している保険		81	24.3
点検・整備を受けた安全な自転車に付帯される「TSマーク付帯保険」		75	22.5
小中高校生が学校で加入するPTA保険		59	17.7
クレジットカードその他に付帯している上記①～④以外の付帯保険		15	4.5
加入していることは確かだが、どのような保険であるかは分からない		13	3.9
その他		19	5.7

●「自動車保険、火災保険などの損害保険の中で、特約として加入」が56.0%と最も多く、次に「「自転車保険」と名称に明記している保険」(24.3%)、「TSマーク付帯保険」(22.5%)の順となっている。



《地域の防災活動への参加について》

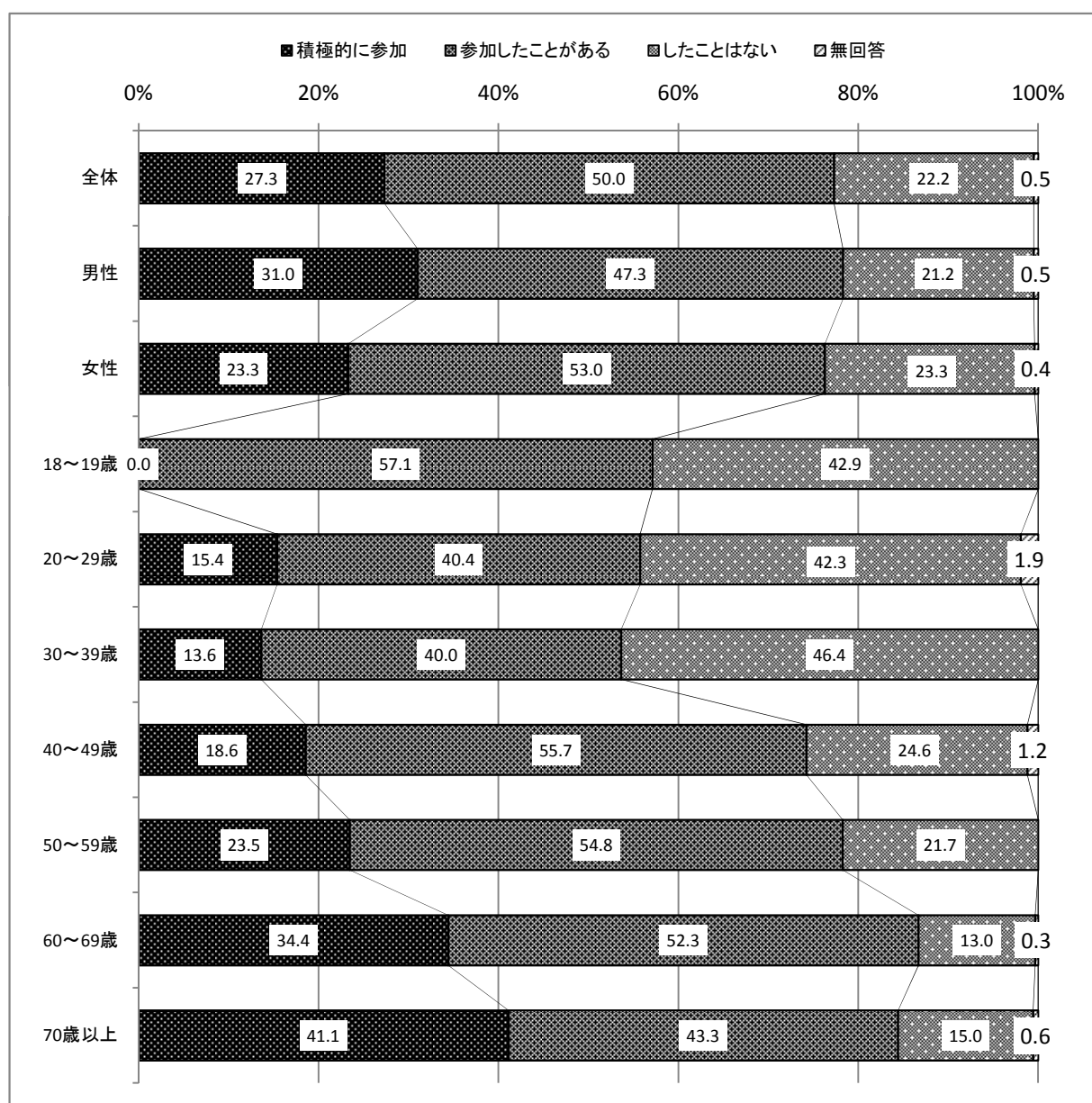
＜地域で実施されている防災活動への参加について＞

「積極的に参加している」、「参加したことがある」が合わせて8割弱、「参加したことはない」が約2割

問7 地域で実施されている防災活動（防災訓練、講習会等）に、ご本人又は同居のご家族の方が参加したことはありますか。（○は1つ）

	n= 1,057	回答数 (人)	割合 (%)
積極的に参加している		289	27.3
参加したことがある		528	50.0
参加したことはない		235	22.2
無回答		5	0.5

●年代が上がるにつれて防災活動への参加率が高くなっており、「参加したことがある」、「積極的に参加している」と回答しているのは20代、30代では5割超であるのに対し、60代では9割弱、70代以上では8割超となっている。



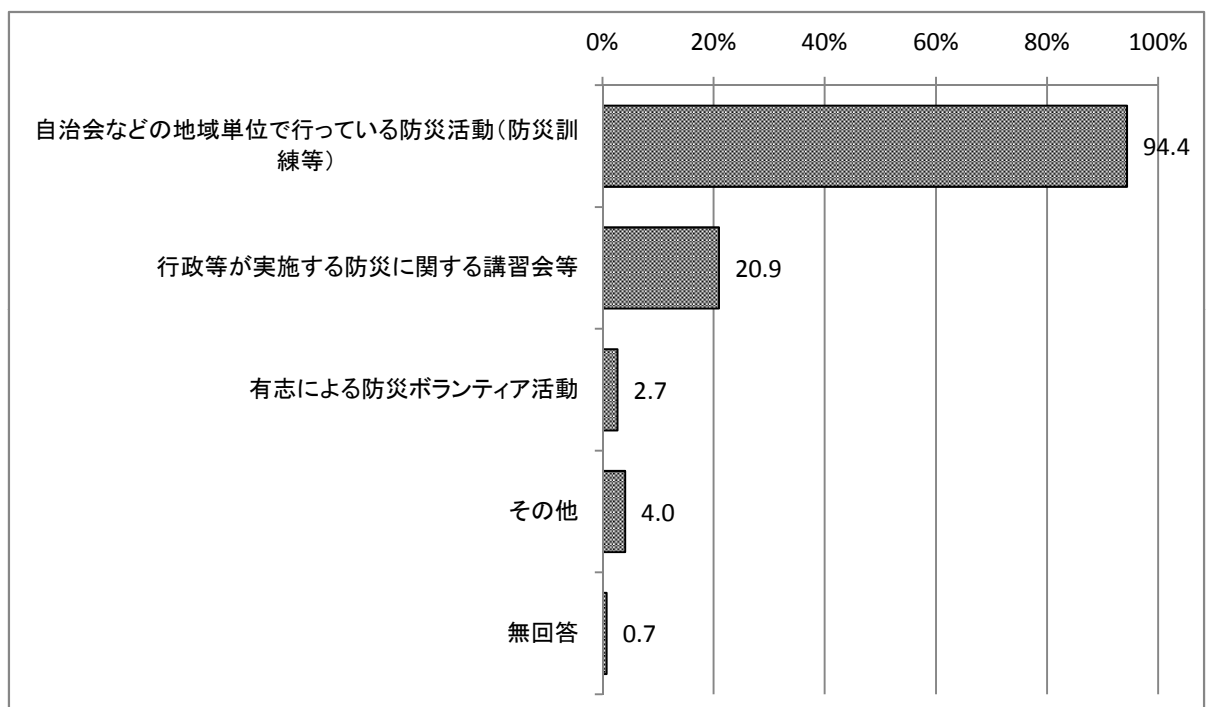
＜参加している防災活動について＞

「自治会などの地域単位で行っている防災活動（防災訓練等）」が9割超、「行政等が実施する防災に関する講習会等」が約2割

問8 問7で①又は②を選ばれた方にお伺いします。
どのような防災活動に参加していますか。（〇はいくつでも）

	n= 817	回答数 (人)	割合 (%)
自治会などの地域単位で行っている防災活動（防災訓練等）		771	94.4
行政等が実施する防災に関する講習会等		171	20.9
有志による防災ボランティア活動		22	2.7
その他		33	4.0
無回答		6	0.7

●「自治会などの地域単位で行っている防災活動（防災訓練等）」が94.4%と最も高く、次に「行政等が実施する防災に関する講習会等」（20.9%）が高い割合となっている。



その他としては「勤務先における防災訓練」、「消防団活動への参加」、「日赤の訓練・講習」等が見られた。

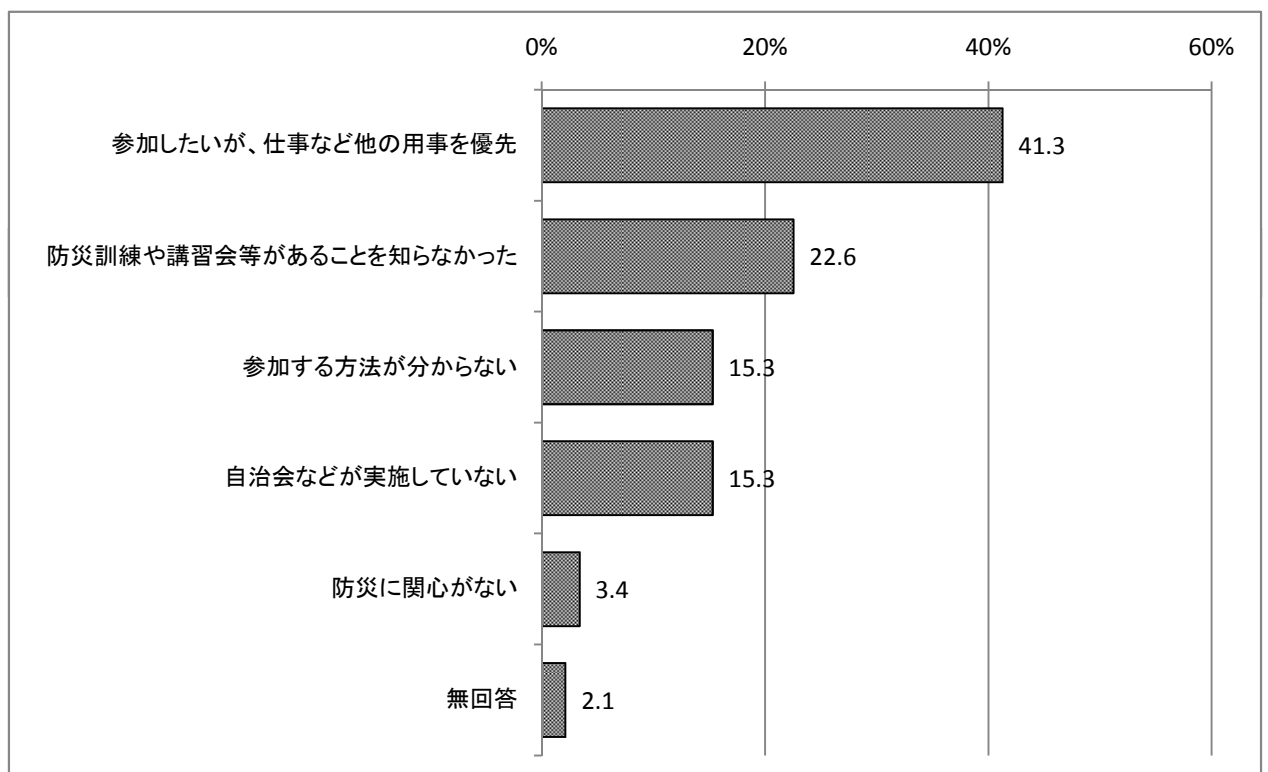
＜防災活動に参加しない理由＞

「参加したいが、仕事など他の用事を優先」が約4割、「防災訓練や講習会等があることを知らなかった」が2割超

問9 問7で③を選ばれた方にお伺いします。
防災活動に参加しない理由は何故ですか。(○は1つ)

	n= 235	回答数 (人)	割合 (%)
参加したいが、仕事など他の用事を優先		97	41.3
防災訓練や講習会等があることを知らなかった		53	22.6
参加する方法が分からない		36	15.3
自治会などが実施していない		36	15.3
防災に関心がない		8	3.4
無回答		5	2.1

●「参加したいが、仕事など他の用事を優先」が41.3%と最も高く、次に「防災訓練や講習会等があることを知らなかった」(22.6%)、「参加する方法が分からない」(15.3%)、「自治会などが実施していない」(15.3%)と続いている。



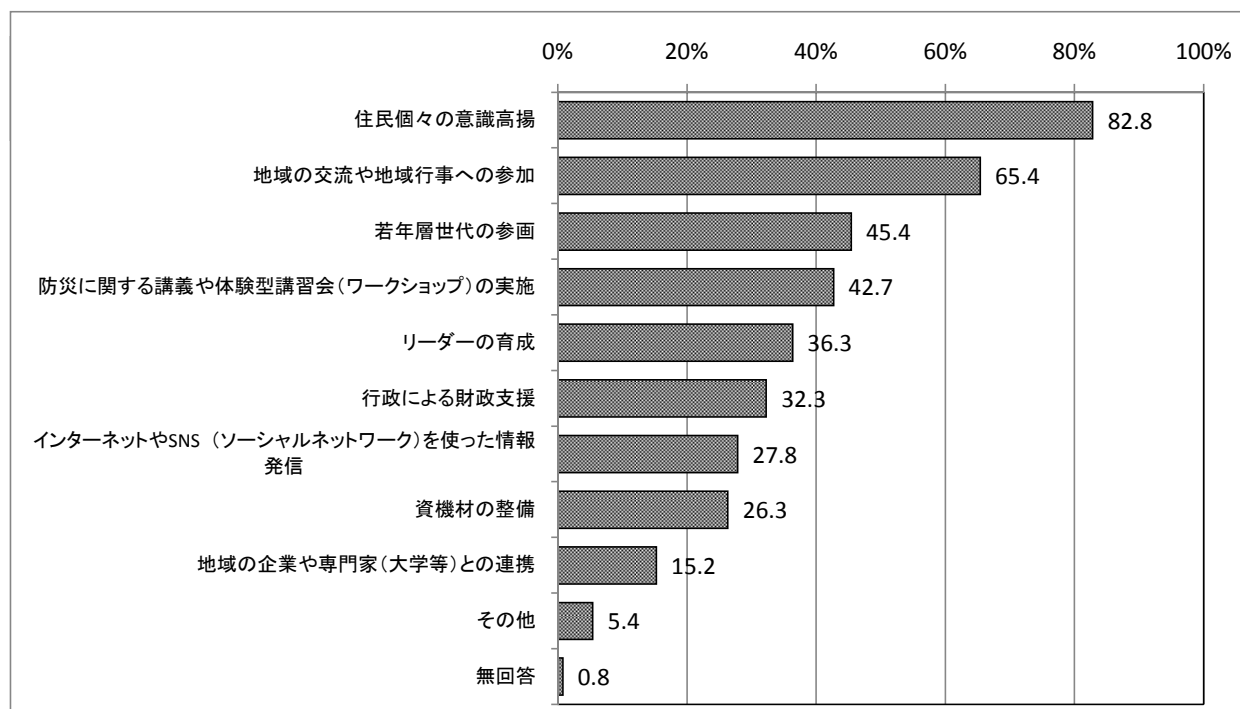
＜地域の防災力を高めるために必要なことについて＞

「住民個々の意識高揚」が8割超、「地域の交流や地域行事への参加」が6割超、「若年層世代の参画」、「防災に関する講義や体験型講習会(ワークショップ)の実施」がそれぞれ4割超

問10 地域の防災力を高めるために何が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

	n= 1,057	回答数 (人)	割合 (%)
住民個々の意識高揚		875	82.8
地域の交流や地域行事への参加		691	65.4
若年層世代の参画		480	45.4
防災に関する講義や体験型講習会(ワークショップ)の実施		451	42.7
リーダーの育成		384	36.3
行政による財政支援		341	32.3
インターネットやSNS(ソーシャルネットワーク)を使った情報発信		294	27.8
資機材の整備		278	26.3
地域の企業や専門家(大学等)との連携		161	15.2
その他		57	5.4
無回答		8	0.8

●「住民個々の意識高揚」が82.8%と最も高く、次に「地域の交流や地域行事への参加」(65.4%)、「若年層世代の参画」(45.4%)と続いている。



《人権に関する意識について》

＜人権を尊重する意識の定着について＞

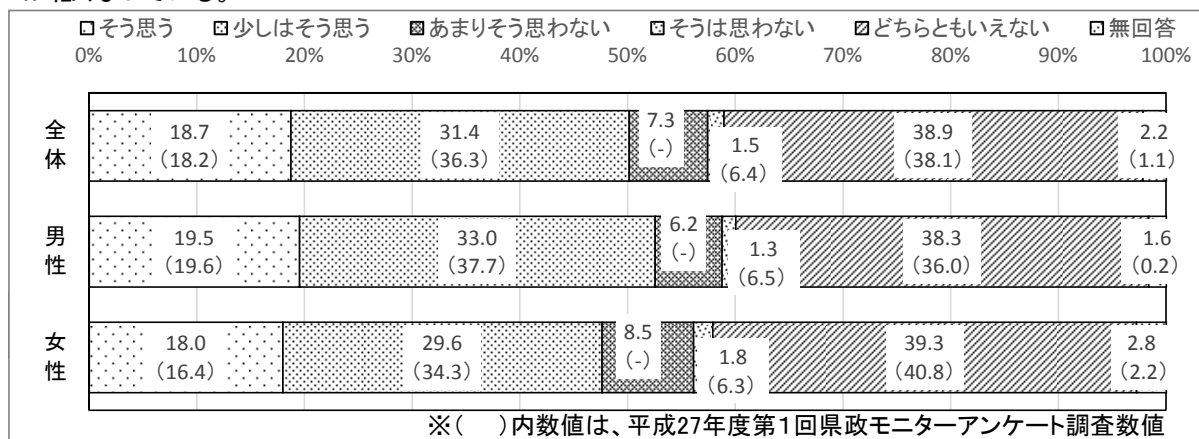
「長野県は人権を尊重する意識が定着した住みよい県だ」と「少しはそう思う」が合わせて約5割

問11 長野県は「人権を尊重する意識」が定着した住みよい県ですか。(○は1つ)

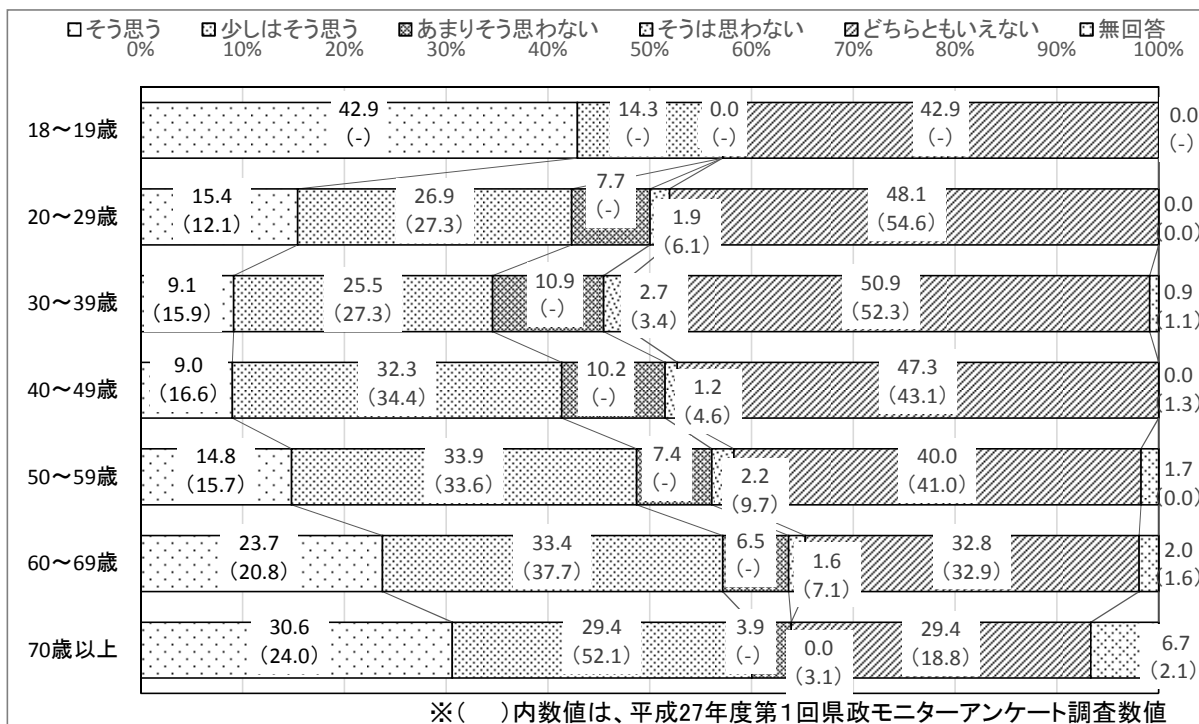
	H28年度 n=1,057		(参考)H27年度 n=841	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
そう思う	198	18.7	153	18.2
少しはそう思う	332	31.4	305	36.3
あまりそう思わない	77	7.3	-	-
そうは思わない	16	1.5	54	6.4
どちらともいえない	411	38.9	320	38.1
無回答	23	2.2	9	1.1

●「そう思う」、「少しはそう思う」と感じている人の割合は50.1%で、「どちらともいえない」と感じている人の割合は38.9%となっている。

●男女別では、女性(47.6%)の方が男性(52.5%)に比べ、「そう思う」、「少しはそう思う」と感じている割合が低くなっている。



●年代別では、「そう思う」、「少しはそう思う」の割合が低いのは30代(34.6%)で、30代以降では、年代が上がるほど「そう思う」、「少しはそう思う」の割合が高くなっている。



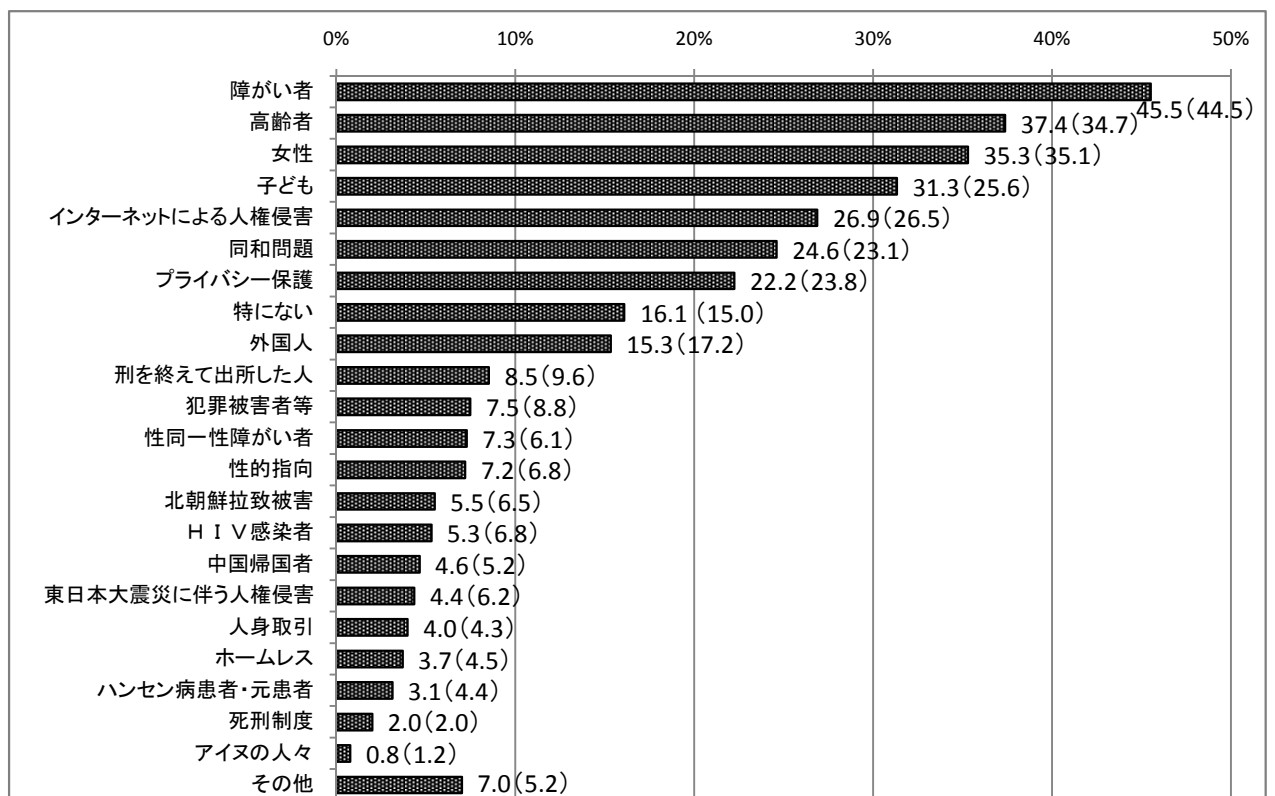
＜長野県で起きていると思う人権問題＞

「障がい者に関すること」が4割超、「高齢者に関すること」が4割弱、「女性に関すること」が3割超

問12 あなたは、長野県において、現在どのようなことがらで人権問題が起きていると思いますか。あてはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

	H28年度 n=1,057		H27年度 n=841	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
障がい者に関すること	481	45.5	374	44.5
高齢者に関すること	395	37.4	292	34.7
女性に関すること	373	35.3	295	35.1
子どもに関すること	331	31.3	215	25.6
インターネットによる人権侵害に関すること	284	26.9	223	26.5
同和問題に関すること	260	24.6	194	23.1
プライバシーの保護に関する問題に関すること	235	22.2	200	23.8
特にない	170	16.1	126	15.0
外国人に関すること	162	15.3	145	17.2
刑を終えて出所した人に関すること	90	8.5	81	9.6
犯罪被害者等に関すること	79	7.5	74	8.8
性同一性障がい者(生物学的な性とところの性が一致しない者)に関すること	77	7.3	51	6.1
性的指向(同性愛、両性愛)に関すること	76	7.2	57	6.8
北朝鮮当局によって拉致された被害者等に関すること	58	5.5	55	6.5
HIV感染者に関すること	56	5.3	57	6.8
中国帰国者(永住帰国した中国残留邦人等)に関すること	49	4.6	44	5.2
東日本大震災に伴う人権問題に関すること	46	4.4	52	6.2
人身取引(性的搾取、強制労働等を目的とした人身取引)に関すること	42	4.0	36	4.3
ホームレスに関すること	39	3.7	38	4.5
ハンセン病患者・元患者等に関すること	33	3.1	37	4.4
死刑制度に関すること	21	2.0	17	2.0
アイヌの人々に関すること	8	0.8	10	1.2
その他	74	7.0	44	5.2

●「障がい者に関すること」が45.5%と最も多く、次に「高齢者」(37.4%)、「女性」(35.3%)が高い割合になっている。



※()内数値は、平成27年度第1回県政モニターアンケート調査数値

《県産農産物の認知度・購入意識・食生活について》

＜県の取組・信州オリジナル食材等の認知度＞

信州サーモン、りんご3兄弟(シナノスイート・シナノゴールド・秋映)の認知度が約9割と前回に引き続き高い。
また、「ナガノパープル」の認知が前回から3.7ポイント増加となった。
「おいしい信州ふーど(風土)」の認知度は前回に比べ11.5ポイント減少した。

問13 長野県では県産農産物の認知度向上を図り、オリジナル食材の消費拡大に取り組んでいます。県の取組や制度、オリジナル食材をご存知ですか。項目ごとにあてはまるものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

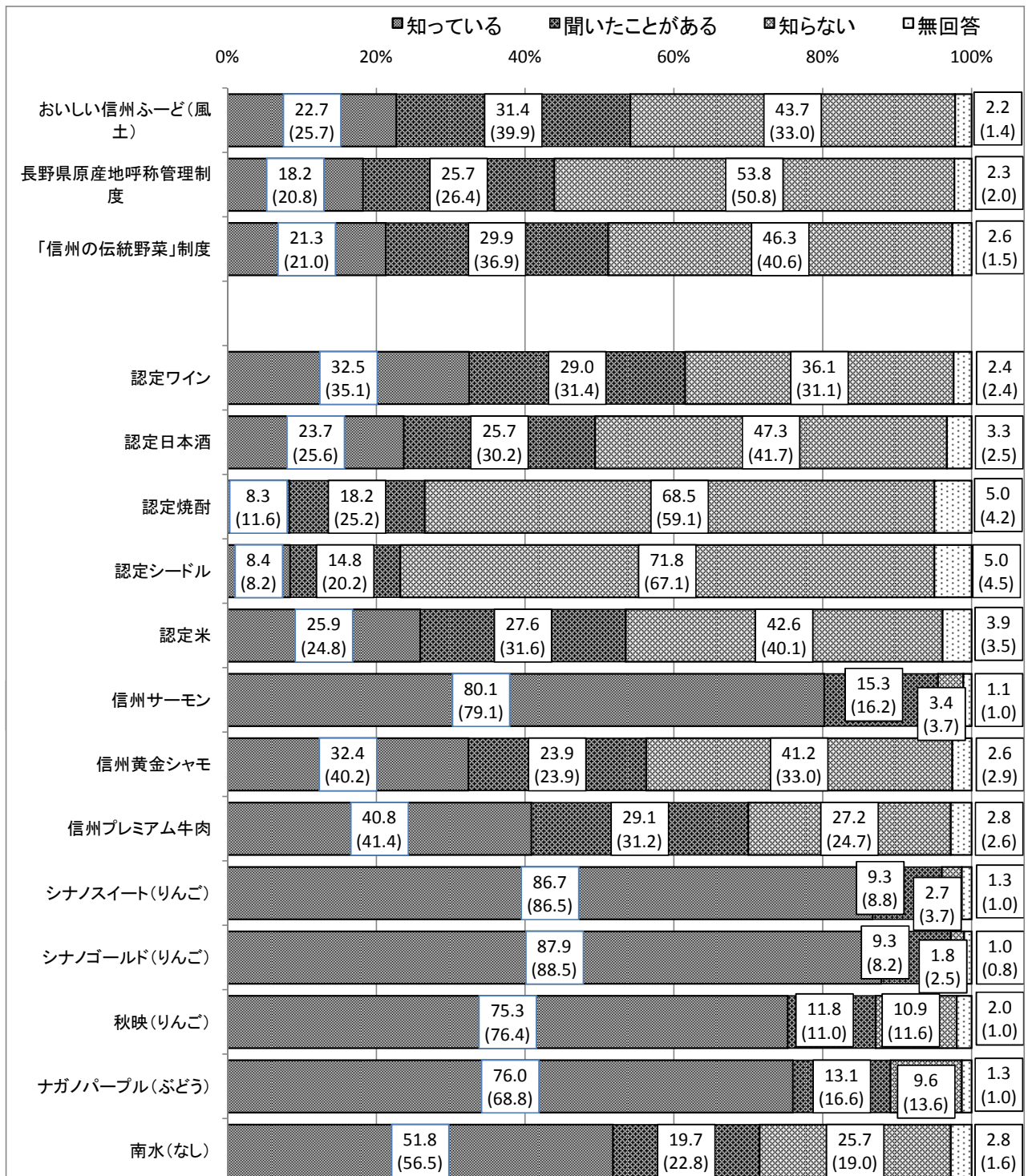
上段:回答者数(人)

下段:割合(%)

n=1,057 (H27年8月実施 n=794)

			知っていますか				(参考)H27年度			
			知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
◇県が取り組む認定制度について										
①	「おいしい信州ふーど(風土)」		240	332	462	23	204	317	262	11
			22.7	31.4	43.7	2.2	25.7	39.9	33.0	1.4
②	長野県原産地呼称管理制度		192	272	569	24	165	210	403	16
			18.2	25.7	53.8	2.3	20.8	26.4	50.8	2.0
③	「信州の伝統野菜」制度		225	316	489	27	167	293	322	12
			21.3	29.9	46.3	2.6	21.0	36.9	40.6	1.5
◇長野県のオリジナル食材について										
①	原産地呼称管理制度	認定ワイン	343	307	382	25	279	249	247	19
			32.5	29.0	36.1	2.4	35.1	31.4	31.1	2.4
②		認定日本酒	250	272	500	35	203	240	331	20
			23.7	25.7	47.3	3.3	25.6	30.2	41.7	2.5
③		認定焼酎	88	192	724	53	92	200	469	33
			8.3	18.2	68.5	5.0	11.6	25.2	59.1	4.2
④		認定シードル	89	156	759	53	65	160	533	36
			8.4	14.8	71.8	5.0	8.2	20.2	67.1	4.5
⑤		認定米	274	292	450	41	197	251	318	28
			25.9	27.6	42.6	3.9	24.8	31.6	40.1	3.5
⑥	信州サーモン	847	162	36	12	628	129	29	8	
		80.1	15.3	3.4	1.1	79.1	16.2	3.7	1.0	
⑦	信州黄金シャモ	342	253	435	27	319	190	262	23	
		32.4	23.9	41.2	2.6	40.2	23.9	33.0	2.9	
⑧	信州プレミアム牛肉	431	308	288	30	329	248	196	21	
		40.8	29.1	27.2	2.8	41.4	31.2	24.7	2.6	
⑨	シナノスイート (りんご)	916	98	29	14	687	70	29	8	
		86.7	9.3	2.7	1.3	86.5	8.8	3.7	1.0	
⑩	シナノゴールド (りんご)	929	98	19	11	703	65	20	6	
		87.9	9.3	1.8	1.0	88.5	8.2	2.5	0.8	
⑪	秋映 (りんご)	796	125	115	21	607	87	92	8	
		75.3	11.8	10.9	2.0	76.4	11.0	11.6	1.0	
⑫	ナガノパープル (ぶどう)	803	138	102	14	546	132	108	8	
		76.0	13.1	9.6	1.3	68.8	16.6	13.6	1.0	
⑬	南水 (なし)	547	208	272	30	449	181	151	13	
		51.8	19.7	25.7	2.8	56.5	22.8	19.0	1.6	

● 信州オリジナル食材では、「シナノゴールド」(97.2%)、「シナノスイート」(95.0%)とりんごの認知度が高く、「信州サーモン」(95.4%)が続いている。



※()内数値は、平成27年度第2回県政モニターアンケート調査数値

<長野県産又は地場産の購入意識>

野菜、果物、きのこは「常に意識して購入している」、「時々意識して購入している」を合わせた割合が約8割と、前年度に続き高い水準で推移している。

問14 あなたは、日頃、農産物を購入する際に、「長野県産又は地場産」を意識していますか。
項目ごとにあてはまるものを選んでください。(○はそれぞれ1つつ)

n=1,057 (H27年8月実施n=794)

①米	回答数 (人)	割合 (%)	(参考)H27年度	
			回答数(人)	割合(%)
常に意識して購入している	535	50.6	397	50.0
時々意識して購入している	229	21.7	168	21.2
意識していない	191	18.1	141	17.8
わからない	33	3.1	39	4.9
無回答	69	6.5	49	6.2

④食肉	回答数 (人)	割合 (%)	(参考)H27年度	
			回答数(人)	割合(%)
常に意識して購入している	253	23.9	208	26.2
時々意識して購入している	372	35.2	268	33.8
意識していない	403	38.1	279	35.1
わからない	15	1.4	20	2.5
無回答	14	1.3	19	2.4

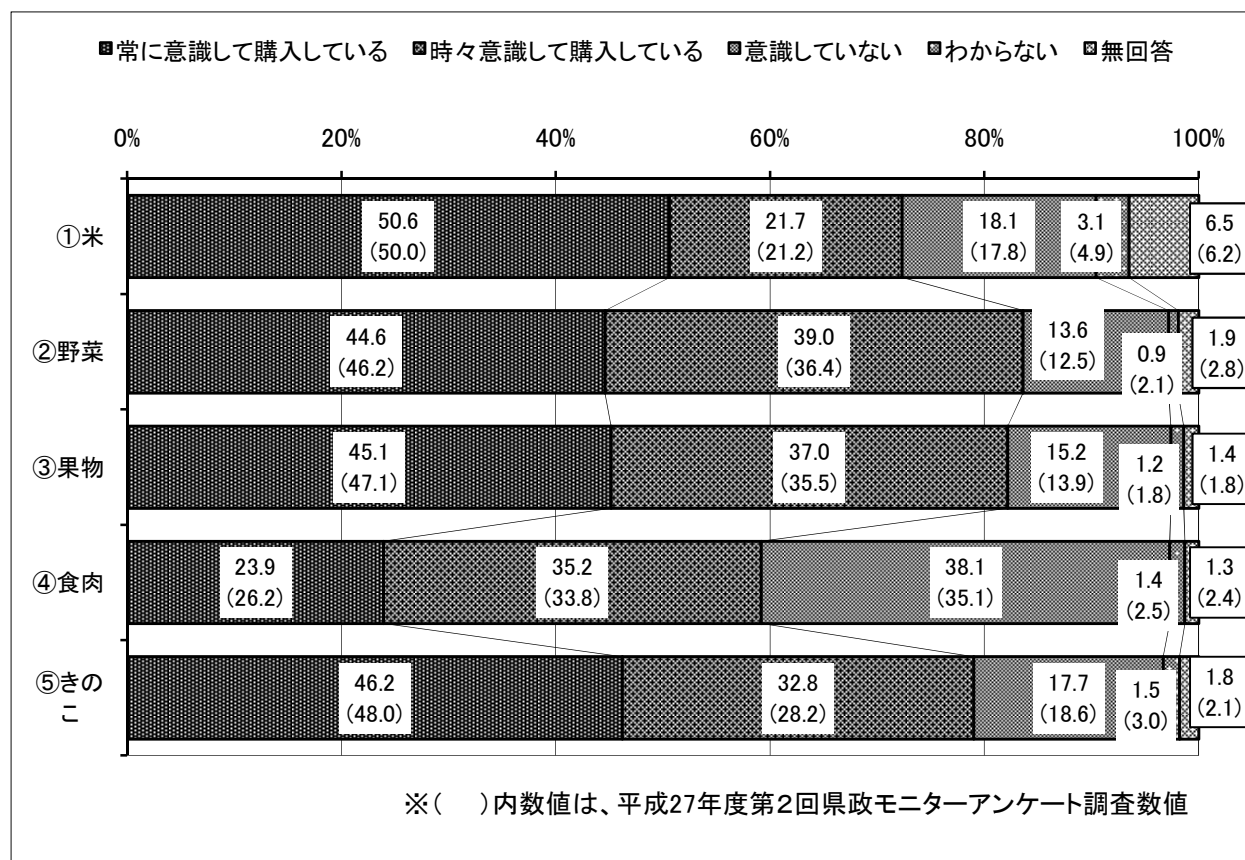
②野菜	回答数 (人)	割合 (%)	(参考)H27年度	
			回答数(人)	割合(%)
常に意識して購入している	471	44.6	367	46.2
時々意識して購入している	412	39.0	289	36.4
意識していない	144	13.6	99	12.5
わからない	10	0.9	17	2.1
無回答	20	1.9	22	2.8

⑤きのこ	回答数 (人)	割合 (%)	(参考)H27年度	
			回答数(人)	割合(%)
常に意識して購入している	488	46.2	381	48.0
時々意識して購入している	347	32.8	224	28.2
意識していない	187	17.7	148	18.6
わからない	16	1.5	24	3.0
無回答	19	1.8	17	2.1

③果物	回答数 (人)	割合 (%)	(参考)H27年度	
			回答数(人)	割合(%)
常に意識して購入している	477	45.1	374	47.1
時々意識して購入している	391	37.0	282	35.5
意識していない	161	15.2	110	13.9
わからない	13	1.2	14	1.8
無回答	15	1.4	14	1.8

【品目別】

●野菜、果物、きのこで「長野県産又は地場産」を約8割が意識して購入しており、総じて農産物購入時における「長野県産又は地場産」の意識度は高い。



＜食生活上の実践度＞

「ごはんなどの穀物をしっかりとる」は9割以上が「できている」と答えている。

また、「食事を楽しむ」「主食、主菜、副菜を基本としたバランスのとれた食事」「家庭で料理をつくる際に地元農産物を利用する」の実践についても約8割が「できている」であり、食生活上の実践度はいずれも高い水準にある。

問15 あなたは、日常の食生活についてどの程度実践していますか。

n=1,057 (H27年8月実施n=794)

①食事を楽しむ	回答数 (人)	割合 (%)	(参考)H27年度	
			回答数(人)	割合(%)
ほとんどできている	307	29.0	220	27.7
おおむねできている	575	54.4	443	55.8
あまりできていない	151	14.3	116	14.6
まったくできていない	13	1.2	7	0.9
無回答	11	1.0	8	1.0

②主食、主菜、副菜を基本としたバランスのとれた食事	回答数 (人)	割合 (%)	(参考)H27年度	
			回答数(人)	割合(%)
ほとんどできている	235	22.2	199	25.1
おおむねできている	621	58.8	459	57.8
あまりできていない	179	16.9	118	14.9
まったくできていない	14	1.3	11	1.4
無回答	8	0.8	7	0.9

③ごはんなどの穀類をしっかりとる	回答数 (人)	割合 (%)	(参考)H27年度	
			回答数(人)	割合(%)
ほとんどできている	519	49.1	410	51.6
おおむねできている	444	42.0	318	40.1
あまりできていない	80	7.6	53	6.7
まったくできていない	4	0.4	5	0.6
無回答	10	0.9	8	1.0

④家庭で料理をつくる際に地元農産物を利用する	回答数 (人)	割合 (%)	(参考)H27年度	
			回答数(人)	割合(%)
ほとんどできている	318	30.1	348	43.8
おおむねできている	519	49.1	341	42.9
あまりできていない	192	18.2	94	11.8
まったくできていない	15	1.4	5	0.6
無回答	13	1.2	6	0.8

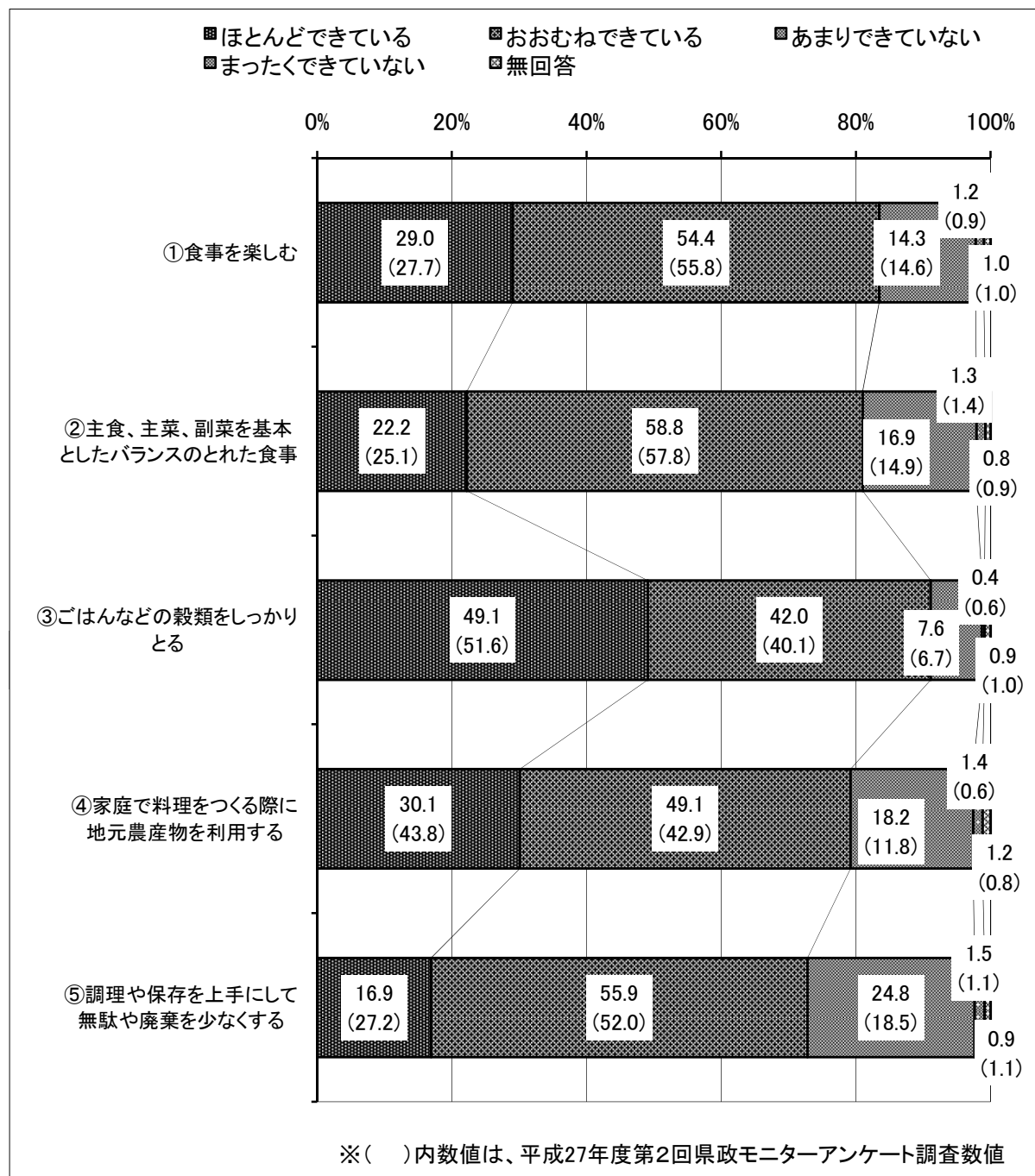
⑤調理や保存を上手にして無駄や廃棄を少なくする	回答数 (人)	割合 (%)	(参考)H27年度	
			回答数(人)	割合(%)
ほとんどできている	179	16.9	216	27.2
おおむねできている	591	55.9	413	52.0
あまりできていない	262	24.8	147	18.5
まったくできていない	16	1.5	9	1.1
無回答	9	0.9	9	1.1

総 合	回答数 (人)	割合 (%)	(参考)H27年度	
			回答数(人)	割合(%)
①から⑤のすべてが「おおむねできている」又は「ほとんどできている」と回答した者	539	51.0	629	79.2
①から⑤の中に1項目以上「あまりできていない」又は「まったくできていない」と回答した者	513	48.5	156	19.6

【区分別】

●「ごはんなどの穀物をしっかりとる」は9割以上が「できている」と答えている。

また、「家庭で料理をつくる際に時々地元農産物を利用する」「食事を楽しむ」「主食、主菜、副菜を基本としたバランスのとれた食事」の実践についても約8割が「できている」であり、食生活上の実践度はいずれも高い水準にある。



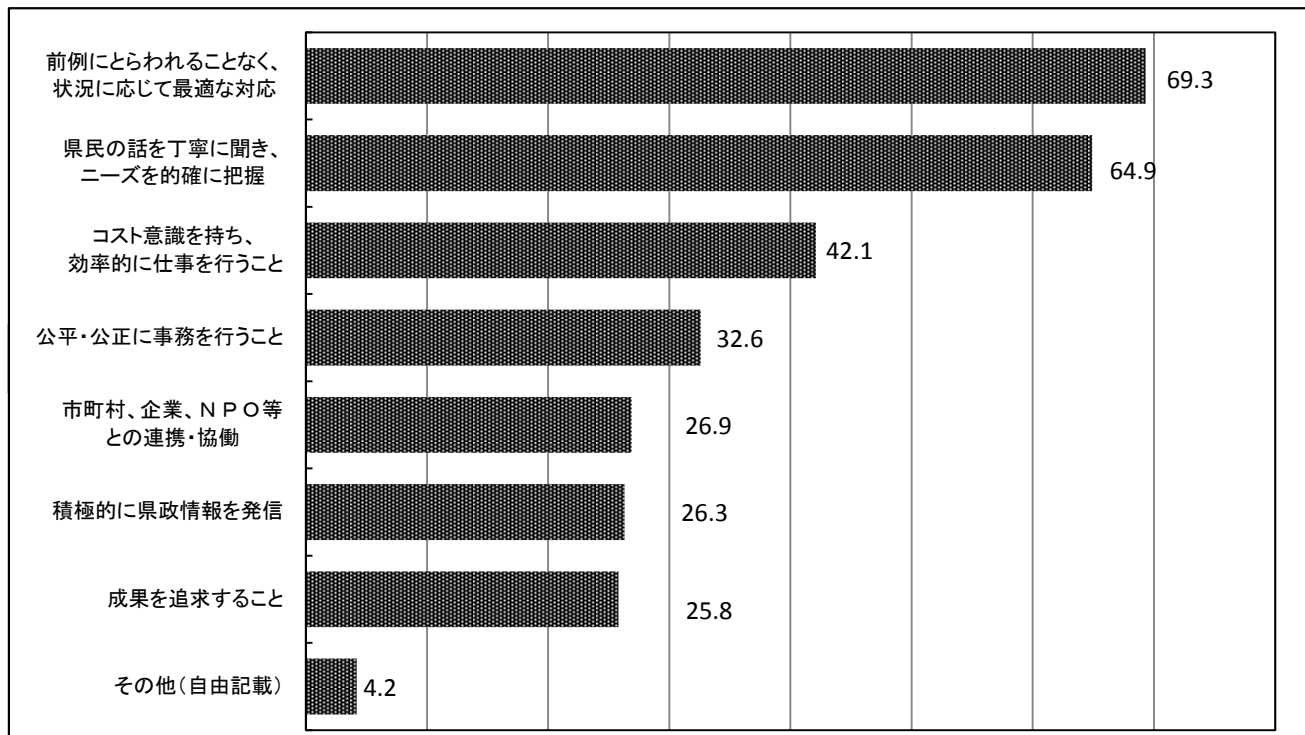
＜県職員の姿勢・行動について＞

「前例にとらわれず、状況に応じて最適な対応」が約7割で最多、次いで「県民ニーズの的確な把握」が6割超

問16 県民の皆様の期待に応えるために、県職員はどのようなことを大切にして職務にあたるべきと考えますか。特に重要なものを3つ選んでください。

	n=1,057	回答数 (人)	割合 (%)
前例にとらわれることなく、状況に応じて最適な対応をすること		732	69.3
話を丁寧に聞き、県民の皆様のニーズを的確に把握すること		686	64.9
コスト意識を持ち、効率的に仕事を行うこと		445	42.1
公平・公正に事務を行うこと		345	32.6
市町村、企業、NPO等と連携・協働すること		284	26.9
積極的に県政情報を発信すること		278	26.3
事業を実施すること自体を目的にするのではなく、成果を追及すること		273	25.8
その他(自由記載)		44	4.2

●「前例にとらわれることなく、状況に応じて最適な対応をすること」が69.3%と最も高く、「話を丁寧に聞き、県民の皆様のニーズを的確に把握すること」(64.9%)が続いている。



その他としては、県民の立場で考え、親身に対応するなど「県民起点の姿勢」や、言葉遣いや接し方など「職員の接遇」が大切である等の意見が見られた。